行政視察報告書　　建設経済環境委員会　　　2018年7月30日(火)

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11番　石井通春

|  |  |
| --- | --- |
| 視察先 | 埼玉県草加市 |
| 研修テーマ（調査項目） | 当事者で作る　まちづくり |
| 1. 調査内容をどう評価するか   ・草加リノベーションまちづくり事業、草加の当事者でつくるまちづくり（清水、沼津、浜松でも実施）  ・25万人口で発展中、首都圏まで30分。駅前マンションが多い。  ・旧日光街道の草加松並木を中心にして草加松原とする地域を中心に展開（民間主導）  ・本人がやりたいビジネスを応援する創業支援とは位置づけが異なる。地域の前進につながるかどうかが問われるのが草加のまちづくり  ・3~5年間で目に見える変化を求める。  ・補助金は渡さない。渡す事でよいことはないと断言。（補助金ありき、成果なくても補助金に）  ・自分でこれをやりたいというのは対象外である   1. 本市に反映できると思われる点   ・創業支援、空き家対策とは全くの別物であり、公共心が求められるものである。ただ、人口密度が高く、小さなエリアに集中して展開できる点は本市と異なり同様の手法が有用かどうか疑問。  ・空き家率が2・7%であり、本市の18%とはこの点でも異なる。  ・補助金は不動産価値が高まりオーナーが家賃を下げなくなる「副作用」とされていた。事業を成長させるための支援の方向であるが、スキルを持った職員でないと難しいだろう。（草加市は専従職員）  ・家守会社設立や、プレイヤー（当事者意識を持った住民）発掘など、地道な行政の活動もあったが、子育て世代でも専業主婦が多くいるという地域の特性もあったように思えた。行政計画の位置づけは行えるが、実施となると、どうであろうか。   1. その他（感想・意見） | |